

発作性心房細動治療における、ホットバルーンアブレーションでの適切な肺静脈-バルーン接触圧に関する研究

2021年12月から **2022年4月までに**発作性心房細動のためにホットバルーンによるカテーテルアブレーション治療を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「発作性心房細動治療における、ホットバルーンアブレーションでの適切な肺静脈-バルーン接触圧に関する研究」という研究を行います。この研究は、2021年12月1日より **2022年4月30日までに**日本医科大学千葉北総病院循環器内科にて、発作性心房細動のためにホットバルーンによるカテーテルアブレーション治療を受けられた患者さんの治療成績を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：発作性心房細動治療における、ホットバルーンアブレーションでの適切な肺静脈-バルーン接触圧に関する研究
研究期間：倫理委員会承認日～2023年5月31日
研究責任者：日本医科大学千葉北総病院 循環器内科 植竹 俊介

(2) 研究の意義、目的について

本研究は、発作性心房細動治療として行う肺静脈隔離に使用されているホットバルーンにおいて、有効な焼灼範囲を得るにあたり重要と考えられている肺静脈とバルーンの接触圧(肺静脈-バルーン接触圧)が、肺静脈隔離成功指標になりうるのではないかと考え、過去の治療成績を解析した結果から割り出した適切な肺静脈-バルーン接触圧を基にした治療を行った時の治療成績(1回の焼灼で肺静脈隔離が得られる割合)を明らかにすることを目的とします。

(3) 研究の方法について(研究に用いる試料・情報の種類)

2021年12月1日より **2022年4月30日までに**日本医科大学千葉北総病院循環器内科にて、発作性心房細動に対するホットバルーンアブレーションを受けられた患者さんの、バルーンと肺静脈との接触圧や治療成績(1回の治療で肺静脈の治療が完成したか)、術後3-6カ月に撮影したCTを用いて肺静脈狭窄が出ていないかなどを解析し、肺静脈-バルーン接触圧と1回治療成績との関連についての検討を行います。
この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。
試料：血液(術前に一般的に必要な項目のみ)等
情報：年齢、性別、術前後のCTで評価した肺静脈の太さの変化等

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(文部科学省・厚生労働省)」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学千葉北総病院 循環器内科 助教 植竹 俊介
〒270-1694 千葉県印西市鎌苅1715
電話番号：0476-99-1111(代表) 内線：2273